

3. 重要な地域

(1) 名残の谷地田地区

① 分布状況

この地域にはイノシシの足跡、ぬた場がみられ、地域在住の方からノウサギの目撃情報が得られている。アカネズミなどの小型ほ乳類の生息が予想される地域であるがシャーメントラップでは捕獲できなかった。コウベモグラの坑道が見られた。

② 価値評価

イノシシは比較的最近まで、害獣として目の敵にされるほど多く見られていたが、このところ姿が見られなくなった。福岡県内の他の地域と同様に、この地域でも生物の多様性など自然環境の質が低下してきていることは否めないであろう。

(2) 許斐山周辺

① 分布状況

この山間部に設置した落とし罠からジネズミの個体が拾得された。またコウベモグラの坑道も頻繁に観察されている。許斐山の山体は大部分が福津市側にある。この山林はほとんど二次林であり、比較的よく整備されている。駐車場も整備されて立派な遊歩道ができています。宗像市側では約10年前、アカネズミとヒメネズミが捕獲されていた。これらはいまだに普通に生息しているようである。またテンの糞、イノシシの足跡、土耕跡から中型ほ乳類もいくぶんか生息しているようだ。

② 価値評価

許斐山は個体数を別として、比較的多様な生物相が見られるようである。その意味で、この地域は今の状態を維持してなんとしても保全を図るべきである。捕食者であり、食物連鎖の頂点に近いテンが生息している可能性があり、落とし罠に落ちたジネズミからは豊かな土壤昆虫相やミミズの存在が予想される。その価値は高いといえよう。イノシシやタヌキは近年里に下りてきており、ヒトとの接触が話題にされる動物である。

(3) 孔大寺山

① 分布状況

この地域ではノウサギの目撃、アカネズミの個体が拾得された。また、中腹のお宮の下からコウモリ類(ヒナコウモリ科の仲間)やテンやイタチ類の糞が見られている。またモグラ坑道も至る所に見られている。

② 価値評価

以前旧宗像市の調査で山頂付近を調査したときは、ヒミズなどが捕獲されたが、ネズミ類はあまり捕獲されなかった。孔大寺神宮側では細いが常時わき水が流れ、山頂に比べて生物の多様性も大きいことが知られる。

(4) 樽見川上流

① 分布状況

アカネズミとヒメネズミが拾得された。またコウベモグラの坑道、テンの糞、イタチの糞が確認できた。

② 価値評価

この地域は産業廃棄物が遺棄されており、かなり汚染が進んでいるように思えた。しかし、比較的汚染の少ない山深いところにすむヒメネズミの存在は、湯川山との緑の回廊がうまく繋がっている事を示唆するものかもしれない。

(5) 離島のほ乳類(大島・地島・遠見山周辺・沖ノ島)

(5-1) 大島

① 分布状況

中央部の丘陵でハツカネズミを拾得している。その他アカネズミは少なくとも生息していそうだが、シャーメントラップには入らなかった。山頂付近で中型ほ乳類の痕

跡として、テンまたはイタチの糞と思われるものを確認している。また、コウベモグラらしき坑道も見つかっているが、捕獲していないので、この島のモグラがコウベモグラであるとは同定できない。この他にもタヌキ、アナグマも生息していそうだが、痕跡は見つからなかった。バットデテクターや目視、かすみ網による調査をおこなったが、コウモリ類は確認できなかった。島の住民の聞き込みによれば、アブラコウモリらしいものが港に飛翔していることがあるそうだが、その正体は不明である。

② 価値評価

宗像市の中でかなり面積が大きな島なので比較的豊富な生物相を期待していたが、島の大部分が牧場やレジャー施設となっており、かなり単純な生物相から出来ているようだ。

(5-2) 地島

① 分布状況

遠見山ではモグラによる坑道が見られたが、これが本土のコウベモグラであるかどうか不明である。その他、観光用のイラストマップには観音洞窟ではコウモリが見られるように記載されている。このコウモリがどの種であるか不明である。

② 価値評価

離島の中で面積が狭く、多様な生物が生息しているようには思えない。

③ 保全上の課題・さらに調査を進める上での課題

もうすでに山頂付近まで遊歩道が設置されており、これ以上に開発は必要ないと思われる。

(5-3) 沖ノ島

① 分布状況

2回の上陸にもかかわらず、ほ乳類の痕跡すら得ることができなかった。罾をいっさい使えない調査としてはやむをえないことである。社務所付近でクマネズミが捕獲されたことを、かご罾に捕獲された写真から確認することができた。

既存の報告書ではオキノシマジネズミが生息していたはずであるが、この20年以上の間、全く確認されていない。10年ほど前の報告書ではクマネズミがかなり生息していたことが報告されている。島の北側斜面にはいくつかの海食洞があり、この中にコウモリがいるらしいことはかなり前の報告書に記載されている。今回もチャーターした船で夕刻一周していただいたが、バットデテクターには反応が見られなかった。またその痕跡も見られなかった。しかしこの島の北面の崖にはいくつか海食洞があり、季節を限って渡りを行うコウモリ類が生息していることが考えられる。総じて、2回の上陸では見るべきものがないという結論に達した。

② 価値評価

社務所付近でクマネズミが捕獲されているが、このクマネズミはおそらく接岸している漁船から荷物に紛れて侵入したものであり、個体数は状況によりかなり変動するものであると思われる。また、モグラ目の中で亜種と考えられているオキノシマジネズミの生息の可能性が残されている。2回の上陸では見るべきものがないという結論

に達した。

<参考文献>

- 黒木茂・林宏・吉田博一 1964～1967 沖ノ島の陸産脊椎動物、沖ノ島生物総合調査報告 74 p : 35-53 福岡県高等学校生物部会
- 平岩馨邦・内田照章 1960 福岡県沖ノ島の脊椎動物相、とくに鼠類の特殊性について、九大農芸誌 **18** (2) : 187-204